



令和2年11月 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場ニュース

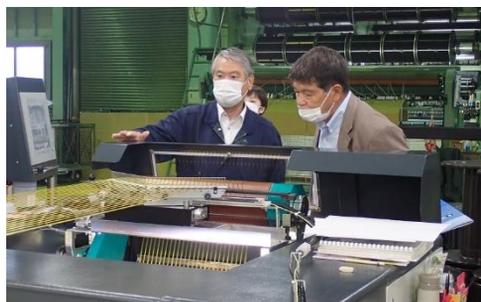
### 定置網からクロマグロを逃がす先進事例を学ぶ

静岡県定置漁業協会は、県の「水産イノベーション対策事業」を活用して定置網に迷入したクロマグロを効率的に網外へ逃がす体制や手法の開発を行っています。この技術に関する情報収集を目的として、10月23日に石川県かほく市の製網会社ホクモウ(株)を視察しました。視察では、同社が石川県や大学と研究開発を進めている定置網内のクロマグロを捕獲して逃がす網や、船上でクロマグロと他の魚種を分ける選別台について説明を聴き、併せて製網作業現場等も見学しました。参加者は担当者の説明を熱心に聞いており、同社が開発中の網の長所・短所、扱いやすさ、現場導入時の課題等について意見交換がなされ、参加者の知識醸成に繋がったことと思います。

解説：水産イノベーション対策事業：水産業者が取り組みたいアイデア（高付加価値化、資源管理手法導入等）を具体化するためのスタートアップ資金を補助する制度



←先進事例を聴講する参加者



←製網現場を見学

### 白浜でテングサ漁場の雑藻刈り

下田市白浜地区の素潜り漁業者と協働でテングサ漁場の雑藻刈りを10月20日に行いました。試験研究としては昨年度終了し、雑藻刈りを行った漁場では年当たりテングサ約300kg/800m<sup>2</sup>が収穫されることが分かっています。さらなる漁場の回復を求めて、素潜り漁業者3名、当场職員3名で1時間30分ほどかけてオオバモクやカジメなどの雑藻に被われた漁場の雑藻刈りを行いました。



↑素潜り漁業者による雑藻刈り

解説：テングサ漁場の雑藻刈り：テングサ漁場は漁獲努力が減少するとテングサ以外の雑藻が繁茂して荒廃していく。このような漁場から雑藻を除去することでテングサ漁場を回復させることができる。

### 網代地区でカジメ母藻投入

熱海市網代地区の地先では、カジメの磯焼けが発生しており、カジメを主な餌とするメガイアワビが減少するなど、潜水漁業に大きな影響を与えています。そこで、いとう漁協網代支所では、10月12日にカジメの磯焼け対策として母藻投入を行いました。母藻投入とは、成熟したカジメ(母藻)を海藻の回復させたい漁場へ投入し、胞子を供給する方法です。母藻には、台風後に白浜地区へ打ちあがったカジメを採取して利用しました。網代地区での母藻投入は初めての取り組みです。上手いけば、来春には小さなカジメが生えてくる可能性があります。



↑打ちあがったカジメを拾う漁業者

解説：磯焼けとは、海藻群落(藻場)が著しく衰退、消失し、海藻が繁茂しなくなる現象。

**11月の予定** ●11/4 下田東中学校、11/6 浜崎小学校が見学で来場します ●西伊豆地域の水産物流通効率化試験を行います ●11/24に県漁業高等学園が研修で来場します ●11/25に水産・海洋研究発表会が開催され、当场からも「マダイ資源量の予測」について発表します。参加申込の上、当场でもウェブで聴講できます。

連絡先：静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：[suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp](mailto:suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp) ホームページ：<https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu>

会場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。